



# 令和6年度 横浜市予算案説明会

2月29日（木）、横浜市庁舎31階レセプションルーム会議室において「令和6年度横浜市予算案説明会」が実施された。横浜地域連合からは五役、各地区連合代表者、政策委員合わせて20名が参加し、予算案の概要説明を受け、意見交換をした。



予算案概要を述べる山中市長

予算案説明会冒頭、山中市長は「就任以来、子どもを育てやすい環境の整備を意識して取り組んできた。子育てしづらい環境の解消には時間的なゆとりをつくる、心のゆとりをつくる、働きやすい環境をつくることに尽きると思う。今後もスピード感を持ち、重層的に産み育てやすい横浜の実現に向けて取り組んでいきたい。1月に能登半島地震が起きたが、横浜でもいつ起こるか



予算案説明会

わからない災害に対し、全力で備えていかなければならない。今回、被災地へ1000名を超える職員を派遣したが、その方々からの報告も踏まえ、令和6年度中に新たな防災戦略を根本的に作り直したい。大規模災害発生時のベースキャンプ機能を持ち、最大の物資備蓄機能を有する広域応援活動拠点の整備等も新たな地震防災戦略策定の中で議論したい。これからも市民の皆様、横浜で働く方々の幸せのために全身全霊取り組んでいく。」と挨拶した。



挨拶をする秋山議長

秋山議長からの挨拶では、「昨年12月22日に横浜市へ提出した47項目の「政策・制度要求と提言」に対する回答をいただいた。新年度予算案では、横浜地域連合として提言を行った様々な課題についても予算措置を行っているが、とりわけ『育児環境の向上』『保育・教

育人材の確保及び資質向上のための取り組みの推進』『児童保育の利便性の向上と充実』、そして地球温暖化等の課題に対応する『水素等次世代エネルギー利活用推進事業、次世代自動車普及促進事業』等に誠意を持って予算措置をしていたことに感謝申し上げた。横浜をより一層輝く都市へと飛躍させていくためにも、横浜市民の皆さんが『横浜に住んで良かった』と思えるように、また防災・減災に対する備えをしっかりと行い、誰もが希望をもって生活できるように、引き続き市政に邁進していただきたい。」と述べた。

引き続き行われた意見交換では、横浜地域連合・鐘ヶ江議長代行より「子育て世代への直接支援」に関連して『二にもつ軽がる保育園』や『放課後等施策での時間負担の軽減』など新たなシステム導入に伴う職員の負担の軽減』についての質問がなされた。横浜からは「子育て世代への支援を進めていくにあたっては、保育・教育現場を支える職員の皆様の業務負担にも配慮していく必要があると考えている。具体的な新規事業では『二にもつ軽がる保育園事業』における施設の負担が発生することも考慮し、施設の事

務負担分も補助する予算案としている。また、『放課後等施策での時間負担軽減』では区役所・市役所へ提出する書類の作成や人材の確保に関して、多くのクラブが課題を感じていることから、入退室システムの開発等DXを推進しクラブの負担軽減を図るほか、大学との連携強化や常勤職員を2人以上配置した場合の補助額の引き上げ等を予算案に盛り込んでいる。」との回答を受けた。

## 連合アクション

# 桜木町駅前広場で街頭行動実施

連合は継続的な賃上げなどの機運醸成にむけて統一的な取り組みを行っており、春闘の本格交渉に向けて2月22日（木）、全国各地で「連合アクションデモ」を実施した。連合神奈川でも各地域連合が連動して取り組み、横浜地域連合は18時から桜木町駅前広場で街頭行動を実施した。



挨拶をする秋山議長

2月下旬ではあるが真冬並みの寒さに加え、霧雨が降る悪条件の中だったが、横浜地域連合から五役を中心に13名が参加し、国会議員、県会議員の方々と秘書の皆さんにもお手伝いいただき、道行く方々にチラシ入りのティッシュペーパーを配布した。



各級議員によるリレートーク

冒頭、秋山議長は主催者挨拶の中で「昨年の春闘では30年振りの賃上げ水準に注目が集まっているが、金額のみならず産業企業、経

濟社会の活力の原動力となる『人への投資』を起点として、経済の好循環を力強く回していくことを目指さなくてはならない。私たちは個別労使の交渉において、その時々有利な材料を使って交渉を進めていく

のは勿論のこと、それだけにとどまらない社会的な運動であることを忘れずに取り組む。今回の春闘では経済社会のステージの転換、格差是正、みんなの春闘をポイントに展開し、労働組合のない職場で働く皆さんも含め、全ての働く仲間たちとともに大きなうねりへと繋げていきたい。」と自身の思いを述べた。

## コラム「るーぷ」

横浜地域連合で副議長を務めています横浜市教職員組合の柴田です。2018〜2019年には事務局長代理、事務局長を務めました。4年ぶりに副議長として横浜地域連合に戻ってきました。どうぞよろしくお願い致します。

「学校の先生は忙しい」「学校現場はブラックだ」。そのような教職員の厳しい状況が社会に広く知られるようになりました。私自身も教員として働いていました。実際に、教員の仕事は、ドラマや映画で見るとは大きく違い、辛いこと、しんどいことがたくさんあります。子どもや保護者への対応も、ドラマなどのようになんでもかんでもうまくいくわけではありませぬ。しかし、子どもたちの成長に携わるこの仕事だからこそ味わえる感動や喜び、やりがい、達成感があります。それは他の職業では得られないかけがえのないものだと思っています。教員の仕事を「ブラックだから敬遠する職業」ではなく、「やってみたいと思う魅力ある職業」だと思ってもらうためには、長時間労働の是正にむけた業務削減や人員確保、そして「定額働かせ放題」の元凶ともいえる「給特法」の廃止・抜本的見直しが必要不可欠です。実現にむけ、地域連合に結集する各労組の皆さんのご支援・ご協力をお願い致します。



副議長 柴田 康光

column "Loop"

横浜地域連合 × ACORSAINS  
横浜地域連合は横浜ビー・コルセアーズを応援しています